



# それからのエレベーター

## ■ミッドのエレベーターは多機能

①「地震（震度4以上）が発生」すると＝バッテリーを使って自動的に最寄りの階へ着床。扉を開閉し、乗っている人の閉じ込めを防ぎます。カゴはその階に停止を続け、安全点検後再稼働します。

②「停電」したとき＝①と似ていますが、通電すればすぐ復旧する管制式です。

③「火災」の場合＝自動運転で1階まで直通運転。その後、管制運転します。

④3、6号機は非常用を兼ね、乗降口上方に「非常用エレベーター呼出釦」がありますが、地震の場合は点検が必要なため使えません。

## ■それでも念を入れて

もし乗っているときに地震がきたら上記の①が働くはずですが、新潟県中越地震（2004年）では都内の高層ビルの6基が作動しなかった例があります。そのため、「揺れたらすぐに操作盤の各階ボタンを全部押せ」と言われています。揺れによる誤作動（中間階に停まってしまい閉じ込め状態になる）を避けるため“指令”するのです。

## ■万一、閉じ込められてしまったら

操作盤＝写真＝にあるインターフォンは停電中でも使えます。すぐに中央管理室（24時間体制）に知らせますが、つながりにくくても何度もかけ直し、落ち着いて救出を待ちます。カゴの中の停電灯（1ルクス）も30分以上灯ります。



**Memo** 今日のエレベーターは▶もし制御板が壊れても自動的に電源が切れ1.3倍速以上にはならない。▶カゴを吊る鋼製ロープのすべてが切れても、制御器が強制的にレールを挟み込んでゆるやかに停止する。▶万一、それらのすべてが不能になっても底の部分の緩衝装置が柔らかく受け止める——と幾重もの安全装置が働くことになっています。

ただ3・11のときは、点検要員の手不足によりエレベーターが動き出したのは約6時間後でした。保守会社の詰め所はMM地区内にあり「今後は速やかに」と断言していますが……。